

# 大虫 多彩画材で46首 越前市

越前市大虫公民館は、地区の自然や歴史を題材にした「大虫ふるさとかるた」を作った。地域の幅広い人たちが読み札を考え、絵札を描き完成させた。公民館では「子どもからお年寄りまで、遊びを通して古里の魅力を再発見する機会になれば」と話している。

新型コロナウイルスの影響で公民館行事や地区のイベントが軒並み中止になる中、地域を盛り上げるツールになればと公民館スタッフが発案。昨年6～8月に

地区住民に読み札の文言を募集したところ、大虫小児童の210首を含む計350首が寄せられた。選考委員会で「あ」「ん」ま

での46首を選んだ。

「アジサイがとっても綺麗な船山古墳」「裏山にいいよいるよサル・インシ」「夏の夜ホテル飛び交

う松明行列」など地域の特徴をとらえた読み札に合わせ、児童や地区の絵画サークル、デイサービスに通うお年寄りらが、A4サイズ

の紙に絵札を描いた。

クレヨンや色鉛筆、水彩画、水墨画、油絵、貼り絵など多彩な手法で描かれ、タッチも描く人によって一枚一枚違いますが、それがかえって手作り感あふれる味のある仕上がり。原画をカラー印刷し、ラミネート加工して完成させた。小さいサイズのかるたも作り、学校や児童館に配るといふ。絵札を多くの人に見てもらおうと、原画を拡大印刷して公民館の廊下に展示している。奥山悦男館長(71)は「お年寄りには懐かしく、子どもたちにとっては地域の良さを学べるかるたになったのではないか。コロナ収束後には、地区のイベントや学校の教材として活用してもらえたら」と話している。

大虫地区の自然や歴史、文化を題材にした「大虫ふるさとかるた」。拡大して公民館に展示している＝越前市丹生郷町



大虫地区の自然や歴史、文化を題材にした「大虫ふるさとかるた」。拡大して公民館に展示している＝越前市丹生郷町